

神奈川県立金沢文庫における  
今後の取組  
(令和6年度～10年度)

令和6年3月

神奈川県立金沢文庫

## はじめに

本県の博物館・美術館は、資料の収集・保管・展示、調査研究、教育普及活動等を通じて県民の知識・教養の向上や学習活動を支援することを目的として、条例に基づき設置されている。

その運営に関しては、平成30年度から自己評価（各年度の事業実施後に自ら点検評価する取組）を実施してきた。

その後、令和3年12月20日の国の文化審議会答申「博物館法制度の今後の在り方について」では、今後の博物館には、従来からの基本的役割の充実はもとより、多様化した役割や高度化した機能を「文化をつなぐミュージアム」として果たすことが期待されるとされた。

この答申を踏まえて令和5年4月1日から施行された改正博物館法では、目的に文化芸術基本法の本質に基づくことが追加されたほか、博物館の事業として、資料のデジタル・アーカイブ化、他の博物館等との連携及び地域の多様な主体との連携・協力を通じた地域の活力向上への取組が追加された。

そこで、神奈川県教育委員会では、文化審議会答申で示された「これからの博物館に求められる役割・機能」（多様化した役割や高度化した機能）を各館の運営方針にも反映するとともに、これまで実施してきた年度ごとの自己評価の取組を中長期的視点に基づき実施していくため、今後の運営に関する中長期的なビジョンとして、「今後の取組」を策定することとした。

令和6年3月

神奈川県教育委員会

## 目 次

1	神奈川県立金沢文庫について	3
2	「今後の取組」に係る期間	3
3	使命	3
4	目標	3
5	取組項目	4
	(1) 資料の収集・保管と文化の継承（「守り、受け継ぐ」）	5
	ア 資料の収集・保存	
	イ 調査研究の推進	
	(2) 資料の展示、情報の発信と文化の共有（「わかち合う」）	6
	ア 資料の展示	
	イ 資料の活用	
	ウ 事業情報の発信の推進	
	(3) 多世代への学びの提供（「育む」）	9
	ア 教育普及活動の推進	
	イ ソーシャル・インクルージョンへの対応	
	(4) 社会や地域の課題への対応（「つなぐ、向き合う」）	11
	ア 関連団体や周辺地域との連携推進	
	(5) 専門的人材の確保、持続可能な活動と経営の改善向上（「営む」）	12
	ア 人材育成の推進	
	イ 施設の維持管理	
	ウ 持続可能な活動と経営	
	(6) その他	14
	ア 利用の促進（入館者）	
	イ 利用の促進（利用者満足度）	
	ウ 利用の促進（インターネットアクセス）	

## 1 神奈川県立金沢文庫について

史跡となっている金沢文庫は、鎌倉時代のなかごろ、北条氏の一族（金沢北条氏）の北条実時が武蔵国久良岐郡六浦荘金沢（現、横浜市金沢区）の邸宅内に造った武家の文庫である。その創設の時期についてはあきらかではないが、実時晩年の建治元年（1275）ごろと考えられている。蔵書の内容は政治・文学・歴史など多岐にわたるもので、収集の方針はその後も顕時・貞顕・貞将の三代にわたって受け継がれ、蔵書の充実がはかられた。金沢北条氏は元弘 3 年（1333）、鎌倉幕府滅亡と運命をともにしたが、以後、文庫は隣接する金沢北条氏の菩提寺である称名寺によって管理され近代に至った。

神奈川県立金沢文庫は、昭和 5 年（1930）に県の施設として復興したもので、平成 2 年（1990）から装いも新たに中世の歴史博物館として活動を行っている。県立金沢文庫は、鎌倉時代の諸相を今日に伝える貴重な文化財を後世に伝えるとともに、その調査・研究の成果を展示や講座を通じて公開し、また、県民の生涯学習の一拠点としてその役割を果たすべく活動を行っている。

## 2 「今後の取組」に係る期間

令和 5 年度に令和 6 年度から令和 10 年度の 5 年間に係る「今後の取組」を策定する。

## 3 使 命

史跡金沢文庫に保管されていた古文書その他の文化財及び中世における歴史、芸術等の人文科学に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の知識及び教養の向上を図るとともに、これらの資料に関する調査研究を行う。

また、多様な主体の団体と相互に連携を図りながら協力し、地域の活力の向上に取り組む。

## 4 目 標

上記使命を実現するため、「5 取組項目」に記載する項目に取り組み、計画期間の令和 10 年度には、次に掲げる姿を目指して行く。

- 金沢文庫・称名寺伝来の貴重な文化財及び豊かな歴史を伝える地域の文化財を後世に伝えていくために、適切な環境のもと、資料の保存・修理・活用・収集を十分行うことができている。
- 良好な研究環境のもと、当文庫に求められる調査研究を十分行うことができおり、その成果を円滑に公開することができている。
- 鎌倉文化の宝庫である中世歴史博物館及び豊かな歴史を伝える地域の資料館としての金沢文庫の魅力を多くの方に知っていただき来館いただ

くため、利用者のニーズや時代にあった情報発信、金沢文庫のブランド力をさらに高める発信を行うとともに、良好な施設設備のもと、来館者の知的好奇心を満たす展覧会や講座を開催することができている。

- 地域や学校との連携が活発であり、適切な施設運営のもと、地域に根ざした県民の生涯学習の拠点としての役割を十分担っており、地域に愛される施設となっている。

## 5 取組項目

文化審議会答申「博物館法制度の今後の在り方について」で示された、これからの時代にふさわしい、新しい博物館に求められる5つの役割・機能<sup>\*</sup>を柱として項目を設定し、それぞれの指標を定め取組を進めていく。

各指標には5年後にあたる令和10年度の目標値を設定し、参考として過去の実績数値を把握できる指標については、5年間(平成30年度～令和4年度)の実績を記載する。なお、この期間の実績数値については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものがある。

### ※(1) 資料の収集・保管と文化の継承(「守り、受け継ぐ」)

博物館は、自然と人類に関する有形・無形の遺産を、関連する事項を含めて地域や社会から資料として体系的に収集・蓄積し、損失のリスクから確実に守るとともに、調査研究によって資料の価値を高め、未来へと継承する。

### (2) 資料の展示、情報の発信と文化の共有(「わかち合う」)

博物館は、資料を系統的に展示し、デジタル化し、来場者のみならず広く情報を発信し、交流することにより、共感と共通理解を醸成するなど人びとと文化を共有する。

### (3) 多世代への学びの提供(「育む」)

博物館は、生涯学習・社会教育の拠点として、多世代の人びとへの学びの機会を提供し、現在と未来に生きる世代を育む。

### (4) 社会や地域の課題への対応(「つなぐ、向き合う」)

博物館は、幅広い文化芸術活動をはじめ、まちづくりや福祉、国際交流、観光、産業、環境などの関連団体、関係者とつながりながら、社会や地域における様々な課題に向き合い、解決に取り組むことにより、持続可能な地球環境の維持、創造的で活力ある地域社会づくり、人びとの健康で心豊かな生活に貢献する。

### (5) 専門的人材の確保、持続可能な活動と経営の改善向上(「営む」)

博物館は、博物館を取り巻く幅広い業務に従事する様々な専門的人材を確保するとともに、物的、財源的な基盤を確保し、安定した経営を行うことにより持続して公益の増進を図る。また、使命の達成をめざし、評価・検証することにより、

その活動と経営を改善し、価値を最大化させる。

## (1) 資料の収集・保管と文化の継承（「守り、受け継ぐ」）

### ア 資料の収集・保存

- ・ 称名寺旧蔵資料・金沢文庫旧蔵本の収集や、称名寺・金沢文庫や地域にゆかりの深い資料の寄託・寄贈を受け入れるとともに、資料購入に向けた寄附受入の取組を行っていく。
- ・ 資料に応じた適切な保存と計画的な修理を行うとともに、収蔵庫の適切な温湿度が保たれるよう、空調機による24時間空調、収蔵庫の日々の温湿度計測と巡回、収蔵庫の定期的な虫菌害調査や燻蒸等の対策を実施していく。

項目	R10 目標
維持管理	良好な展示・保存環境を維持することにより、自然的要因を除く棄損を防止する。

### イ 調査研究の推進

- ・ 保管している資料を中心とした調査研究を進め、その成果を展示・講座・論文等の形で社会に還元していく。

項目	R10 目標	
研究成果の公表	展覧会図録や金澤文庫研究等の出版	
① 文献等の執筆数	10件	(注1)
② 展覧会図録の出版数	5件	(注2)
③ 新聞・雑誌等寄稿	2件	(注3)
④ 金澤文庫研究の出版数	2件	
⑤ 研究集会での発表件数	4件	

注1：著書をはじめ、小論文から解説まで全てを含む。普及的なものもカウント。

注2：他からの依頼は含まない金沢文庫における出版回数。

注3：「新聞」は、1回掲載したら「1件」と数えるが、専門的なものは、「文献」に含める。「雑誌」は、専門的な論文は含めず、展示会案内などをカウント。

(参考：①文献等の執筆数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
8 件	9 件	1 0 件	1 1 件	1 5 件

(参考：②展覧会図録の出版数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
6 件	4 件	4 件	6 件	5 件

(参考：③新聞・雑誌等寄稿の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
4 件	4 件	3 件	1 3 ( 1 ) 件	1 5 ( 2 ) 件

※カッコ内の数字は、一時的な連載を除いた件数。

(参考：④金澤文庫研究の出版数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
2 件	2 件	1 件	2 件	2 件

(参考：⑤研究集会での発表件数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
1 0 件	6 件	3 件	3 件	3 件

## (2) 資料の展示、情報の発信と文化の共有（「わかち合う」）

### ア 資料の展示

- ・ 来館者の知的好奇心を満たす展覧会を開催するとともに、展示品の見やすさに対する工夫・改善を行っていく。

項 目	R10 目標	
展覧会開催数	6 件	特別展・企画展の開催数

(参考：展覧会開催数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
6 件	3 件	5 件	6 件	6 件

	R10 目標
展示の工夫改善	金沢文庫の魅力を多くの方に知っていただくため、より分かりやすく親しみやすい展示方法に取り組む。

## イ 資料の活用

- 文化財の出展管理を行い、特定の文化財に負荷がかからないようにするとともに、資料の状態等にあわせ、展示環境も含めて安全に展示するなど、保存との両立を考慮しつつ積極的な活用を図っていく。
- また、資料の保存とのバランスをとっていくために、画像による公開も進めていく。

項目	R10 目標	
資料・収蔵品 活用		
① 館内展示利用数	250 点	(注 1)
② 特別利用許可申請数	文化財保護の観点から、可能な範囲で対応する。	
③ 館外貸出件数	文化財保護の観点から、可能な範囲で対応する。	
④ 画像貸出件数	80 件	
⑤ デジタル・アーカイブ数	2,000 点	金沢文庫文書データベースにおける公開点数 (累計)

注 1：展示室に展示可能な平均点数×大規模な借用をともしなわれない展覧回数 (50 点×5 回/年) による

(参考：①館内展示利用数の過去 5 年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
375 点	130 点	283 点	348 点	362 点

(参考：②特別利用許可申請数の過去 5 年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
27 件	12 件	5 件	20 件	20 件



(参考：③館外貸出件の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
6 件	3 件	6 件	3 件	1 3 件

(参考：④画像貸出件数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
8 3 件	5 1 件	6 8 件	8 2 件	8 6 件

(参考：⑤デジタル・アーカイブ数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
0 点	500 点	747 点	1,024 点	1,242 点

#### ウ 事業情報の発信の推進

- ・ 購入者の知的好奇心を満たす発行物を製作し、過去の刊行物情報をホームページに公開する取組を進めていく。
- ・ 継続的にデータベースを公開していくため、システム改良や外部との連携等の取組を進めていく。
- ・ ホームページやSNS、発行物等を充実させ、事業情報や保管している資料の重要性を広く発信していく。

項 目	R10 目標	
SNS や各広報媒体における発信回数		
① HPの更新数	80 件	(注1)
② SNS投稿数	250 件	(注2)
③ チラシ・ポスター発行件数	5 件	(注3)
④ 参考資料送付数	6 件	

注1：自前のサーバーがないため、内容を問わず、システム関連等も含めた更新回数。

注2：休館情報等も含む、SNS 全ての投稿回数。

注3：展覧会告知について、チラシ・ポスター全て含めて1件とカウント。

(参考：① HPの更新の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
55 件	70 件	78 件	120 件	91 件

(参考：② SNS投稿の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
246 件	130 件	233 件	287 件	263 件

(参考：③ チラシ・ポスター発行件数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
6 件	3 件	4 件	6 件	6 件

(参考：④ 参考資料送付数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
6 件	4 件	7 件	5 件	8 件

### (3) 多世代への学びの提供（「育む」）

#### ア 教育普及活動の推進

- 各種講座など生涯学習に資する活動や、地域および学校との連携、専門的な情報の提供など、多様な学びの機会を提供し、地域に根ざした生涯学習の一拠点としての役割を果たしていく。

項 目	R10 目標		
教育・普及事業への参加者数			
① 講演会参加者数	5 件	350 人	外部講師による特別講演会等
② 講座等(イベント含む)参加者数	25 件	1,200 人	内部講師による講座等
③ 展示解説の参加者数	35 件	900 人	学芸員による展示解説、団体案内
④ 実習研修等参加者数	1 件	4 人	学芸員実習等
⑤ 学校への出前講座件数	2 件		

⑥ 学習利用受入件数	1 件	学校主催事業の受入件数
⑦ 教材提供	1 件	文化財等の理解の助けとなる補助解説冊子等を極力提供する。
⑧ 出前講座	1 件	地域等からの求めに極力対応する。

(参考：① 講演会参加者数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
6 件 602 人	5 件 414 人	2 件 75 人	7 件 345 人	5 件 263 人

(参考：② 講座等(イベント含む)参加者数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
53 件 3,308 人	28 件 1,600 人	1 件 72 人	22 件 867 人	24 件 1,097 人

(参考：③ 展示解説の参加者数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
77 件 2,007 人	50 件 1,234 人	0 件 0 人	23 件 554 人	32 件 886 人

(参考：④ 実習研修等参加者数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
7 件 19 人	2 件 8 人	1 件 4 人	1 件 4 人	2 件 11 人

(参考：⑤ 学校への出前講座件数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
2 件	4 件	2 件	2 件	2 件

(参考：⑥ 学習利用受入件数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
7 件	2 件	1 件	1 件	1 件

(参考：⑦ 教材提供件数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
5件	1件	1件	1件	1件

(参考：⑧ 出前講座件数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
6件	8件	4件	2件	8件

### イ ソーシャル・インクルージョンへの対応

- ・ 何らかの障がいをもつ人や、距離的・時間的な制約のある人、経済的な問題や子育て中、言語的制約などの社会的障がいをもつ人なども、来館もしくは資料にアクセスしやすくなるよう、きめ細かい工夫をしている。

項目	R10 目標
多文化共生への取組み	様々な来館者に対応した館内表示等を行う。
障がい者等への取組み	時代に即したバリアフリー化を進める。

※ 「ソーシャル・インクルージョンへの対応」は、何らかの障がいをもつ人や、距離的・時間的な制約のある人、経済的な問題や子育て中、言語的制約などの社会的障がいをもつ人などもアクセス可能となる手段の活用。

※ 「多文化共生への取組」には、外国籍の人々や LGBT などのマイノリティーの人々への配慮・アプローチを含む。

### (4) 社会や地域の課題への対応（「つなぐ、向き合う」）

#### ア 関連団体や周辺地域との連携推進

- ・ 他の博物館や研究機関と連携するとともに、地元自治体等、地域との交流を深め、博物館としての総合力を高めていく。

項目	R10 目標
連携事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元自治体・観光協会との連携・協力関係を維持する。</li> <li>・ 地元自治体等に対する情報発信を促進する。</li> </ul>
利用者との対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 館内ボランティア活動（展示解説等）を促進する。</li> <li>・ 地元ガイド協会・ボランティア団体等との協力関係を維持する。</li> </ul>

社会貢献 (各調査委員会等)	1件	文化財に対して自治体や地域等が抱えている問題の解決に、極力専門知識の提供等により協力する。
-------------------	----	---

※ 「連携事業」には、町内会などの地域共同体、観光産業、大学、医療、福祉団体などとの共同事業を含む。

※ 「利用者との対話」には、市民展、ボランティア活動などの市民活動を含む。

(参考：社会貢献(各調査委員会等)受託数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
7件	7件	6件	6件	6件

## (5) 専門的人材の確保、持続可能な活動と経営の改善向上(「営む」)

### ア 人材育成の推進

- ・ 変化する博物館の役割・機能に対応できるよう、職員の専門的力量の向上につなげるとともに、次世代の育成や積み重ねられた経験知の継承を行っていく。

項目	R10目標
自己研鑽及び他館の研究	様々な形で調査研究に取り組んだ成果を展覧会や図録等に反映する。
研修実施※	経験豊富な職員による職場研修会の実施や、外部研修への積極的な参加を促進する。

※ 「研修」とは、館の役割・機能を認識するための研修。学芸員だけでなく、館内の全ての職員が対象。

### イ 施設の維持管理

- ・ 空調をはじめとする施設の維持管理に細心の注意を払うとともに、文化財にとって安全かつ来館者が満足感を得られる博物館としての環境を維持していく。

項目	R10目標
施設点検	展示物や解説札の見やすさ等、高齢者の視点に沿った点検を行う。

防災対策 と訓練の 実施	災害を想定して資料を保管し、訓練の実施により発災時の手順を確認する。
--------------------	------------------------------------

### ウ 持続可能な活動と経営

- ・ リピーター客に加え、幅広い年齢層の来館者増に向けた取組を実施していく。
- ・ 可能な事業について、削減も含め、経費や労力を抑えるための検討を行うとともに、展示の実施方法や実施回数の見直しに向けた取組を進めていく。
- ・ 蔵書・資料の増加に伴う整理や、書庫・書架・収蔵設備の増設に向けた検討を進めていく。
- ・ 金沢文庫の使命や目標を踏まえた事業継続のために、寄付受入れの取組を進めていく。

項目	R10 目標	
① 観覧料及び事業等収入	11,000 千円	
② まなびや基金の寄附金額	金沢文庫に縁のある文化財の購入や保存修理費用等に活用するため、寄附を募る努力を続ける。	

(参考：① 観覧料及び事業等収入の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
13,957 千円	8,315 千円	2,090 千円	10,833 千円	15,213 千円

(参考：② まなびや基金の寄附金額の過去5年間) (目標値設定なし)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
未実施	未実施	未実施	2,093 千円	900 千円

(参考：過去5年間) (目標値設定なし)

	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
① 事業費 (千円)	21,712	120,521	30,971	21,929	22,433
② 維持管理経費	41,619	50,201	36,752	37,328	38,044

(千円)					
③ 人件費 (千円)	112,504	94,536	96,046	114,142	114,142
④ 支出計 (千円)	175,835	265,258	163,769	173,399	174,619

※R4は予算ベース

## (6) その他

上記5つの役割・機能を果たすとともに、県民利用施設として利用の促進を図る。

### ア 利用の促進（入館者）

- 外部との連携や切り口を変えた展示を行うなど、新規の来館者獲得に向けた取組を行っていく。
- 県の持つ広報媒体のほかにも、様々な媒体による広報を行っていく。

項目	R10 目標	
入館者数	28,000 人	

(参考：入館者数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
41,375 人	23,128 人	9,479 人	25,632 人	41,072 人

### イ 利用の促進（利用者満足度）

- 利用者アンケート結果を検証し、利用者の満足度向上に向けた取組を進めていく。

項目	R10 目標	
利用者満足度	90%	

(参考：利用者満足度の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
91.0%	91.0%	90.2%	83.8%	92.1%

### ウ 利用の促進（インターネットアクセス）

- ホームページやSNSにおいては、最新情報を適時適切に案内することはもとより、その特性を活かした効果的な情報発信を行っていく。
- 継続的にホームページを運用できるようにするため、独自サーバーへ

の移行に向けた取組を進めていく。

項目	R10 目標	
インターネットアクセス等		
HPアクセス数	105,000 件	

※ 令和5年2月から12月までの金沢文庫トップページアクセス数の加重平均を基に目標値を設定した。

(参考：HPアクセス数の過去5年間)

H30	R 1	R 2	R 3	R 4
128,837 件	120,730 件	140,914 件	371,322 件	317,406 件

※ 令和5年2月にサーバーが教育委員会ネットワークに移行したことに伴い、アクセス数に大きな差異が生じている。